

ぼくらの川★生き物助け隊

～瀬名新川・水辺の小さな自然再生～

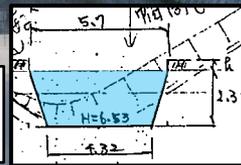
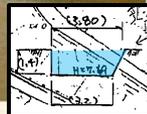


静岡県 静岡土木事務所 河川改良課
島崎 優大
令和6年12月9日（月）

R6. 4. 14撮影

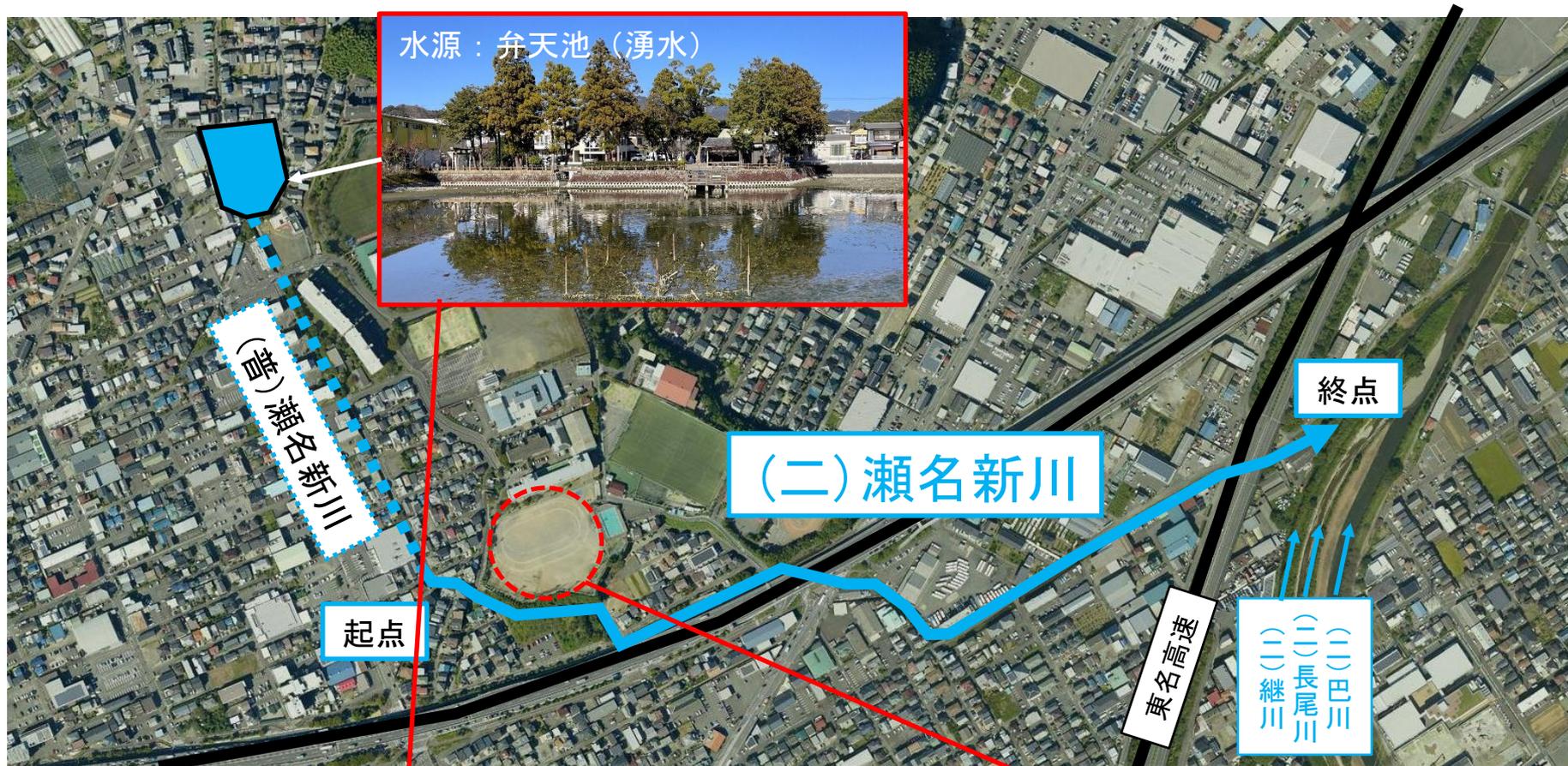
- (二) 瀬名新川の概要
- 令和5年度の掘削工事
- 掘削工事の課題
- 課題に対する目標
- 目標に対する取組
- モニタリング結果
- まとめ
- 今後の方針

(二) 瀬名新川の概要



名称：(二) 瀬名新川
延長：1.03km
流域面積：0.93km²
河床勾配：1/450
セグメント：2-2

(二) 瀬名新川の流域治水



【弁天池】

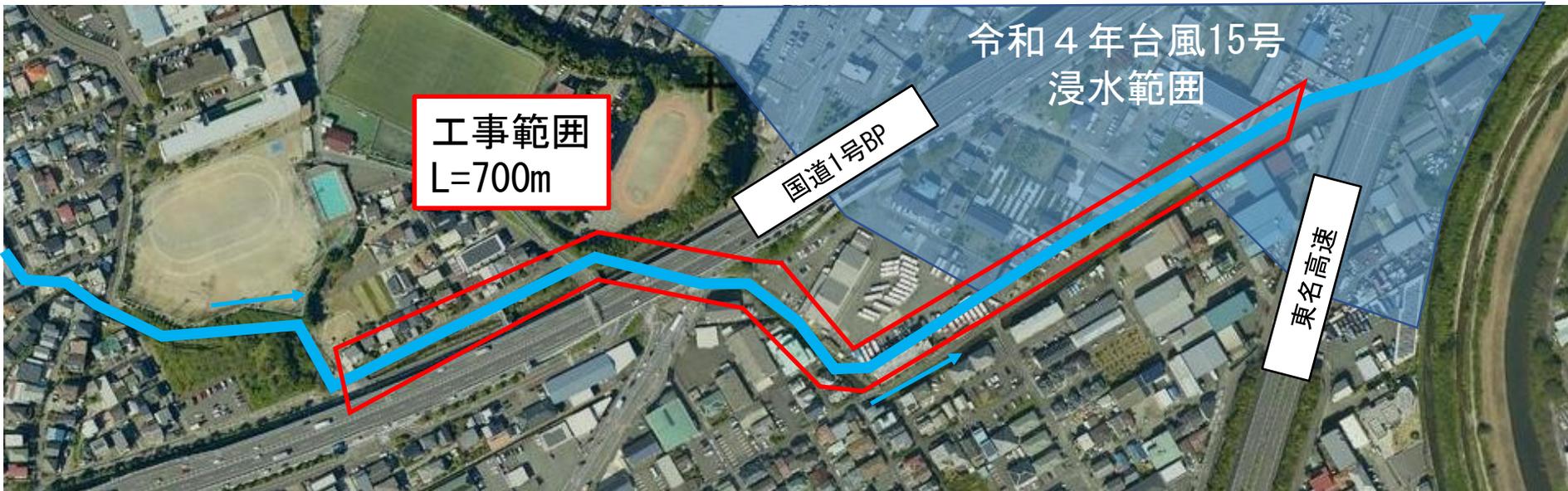
- ・ 1986年に洪水調整池（ $V=4,000\text{m}^3$ ）として再整備
- ・ 現在は事前放流ポンプを設置中

【西奈中学校】

- ・ 雨水貯留施設整備（ $V=2,150\text{m}^3$ ）

令和5年度の掘削工事

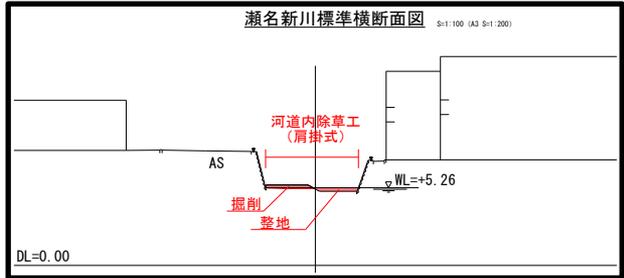
◆ 工事内容：河床掘削＋除草 ※河底を平らに掘るように発注



鋭いトゲを持つ
カナムグラが繁茂



抽水植物が繁茂
土砂堆積が多い



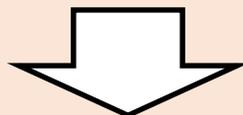
09 カナムグラ
出典：雑草キャラクター図鑑
稲垣栄洋(元県職員)

掘削工事の課題

◆ 課題：除草や平らな掘削による生物が減少する恐れ



- 治水上の観点では……少しでも河道断面を拡げたい
- 生物保全の観点では…生物の生息域を残したい



- 今回の工事では……治水のため河道断面を確保
できるだけ生物保全も実施

課題に対する目標

- ◆従前から生息する生物の保全・復元
- ◆多自然川づくり担い手育成 (地域のこども・大学生)

ヌマチチブ：岩の下に生息
(瀬名新川の代表的な魚)



ミクリ (準絶滅危惧種ー静岡県)
枕草子・源氏物語にも登場



生物の保全・復元

外来種を減らす



アメリカ
ザリガニ

ウォーター
マッシュルーム



多自然川づくりの担い手育成 (こども・大学生)

- 人材育成・情報発信 (地域住民や川づくりに関わる者の更なる参画)を進める！

「多自然川づくり基本指針 (令和6年6月改正)」より

目標に対する取組（生物の保全）

◆土木事務所：取組範囲L=200mにおいて、ミクリや玉石を残すように施工

⇒「ちょっとだけ多自然川づくり」（小規模な取組）

◆地域住民(大学生・こどもたち)：生き物が棲めるよう玉石を水際に移動

⇒「水辺の小さな自然再生」（目標：5箇所）（実施：47箇所）

取組範囲

国道1号BP沿いの約200m

国道1号BP



➤「**生物の生息・生育・繁殖の場**」の定量的な目標の設定

「河川環境の整備と保全の着実な推進や流域連携について（令和6年6月）」より

目標に対する取組（担い手育成）

◆地域住民（大学生・子どもたち）：定期的に生物調査を実施
⇒多自然川づくりを学ぶ = 「担い手育成」

事前調査 R5. 9. 24 小5、中1、大人3

事後調査（モニタリング）

第1回 R6. 4. 14 幼1、小6、中高2、大2、大人5

第2回 R6. 5. 12 幼2、小1、高1、大4、大人7

第3回 R6. 6. 8 小2、大人2

第4回 R6. 6. 22 高1、大人1

第5回 R6. 7. 28 小5、中高2、大3、大人5

第6回 R6. 8. 19 高1、大1、大人9

第7回 R6. 9. 9 小1、高1、大4、大人3

第8回 R6. 10. 21 小7、高1、大人7

のべ参加人数

小学生以下 30人

中高生 10人

大学生 14人

大人 42人

計 96人



取組範囲

国道1号BP沿いの約300m



モニタリング結果

◆ミクリの生育、新たな植生、生物の棲みかを確認



◆泥質から砂礫の川底に変化

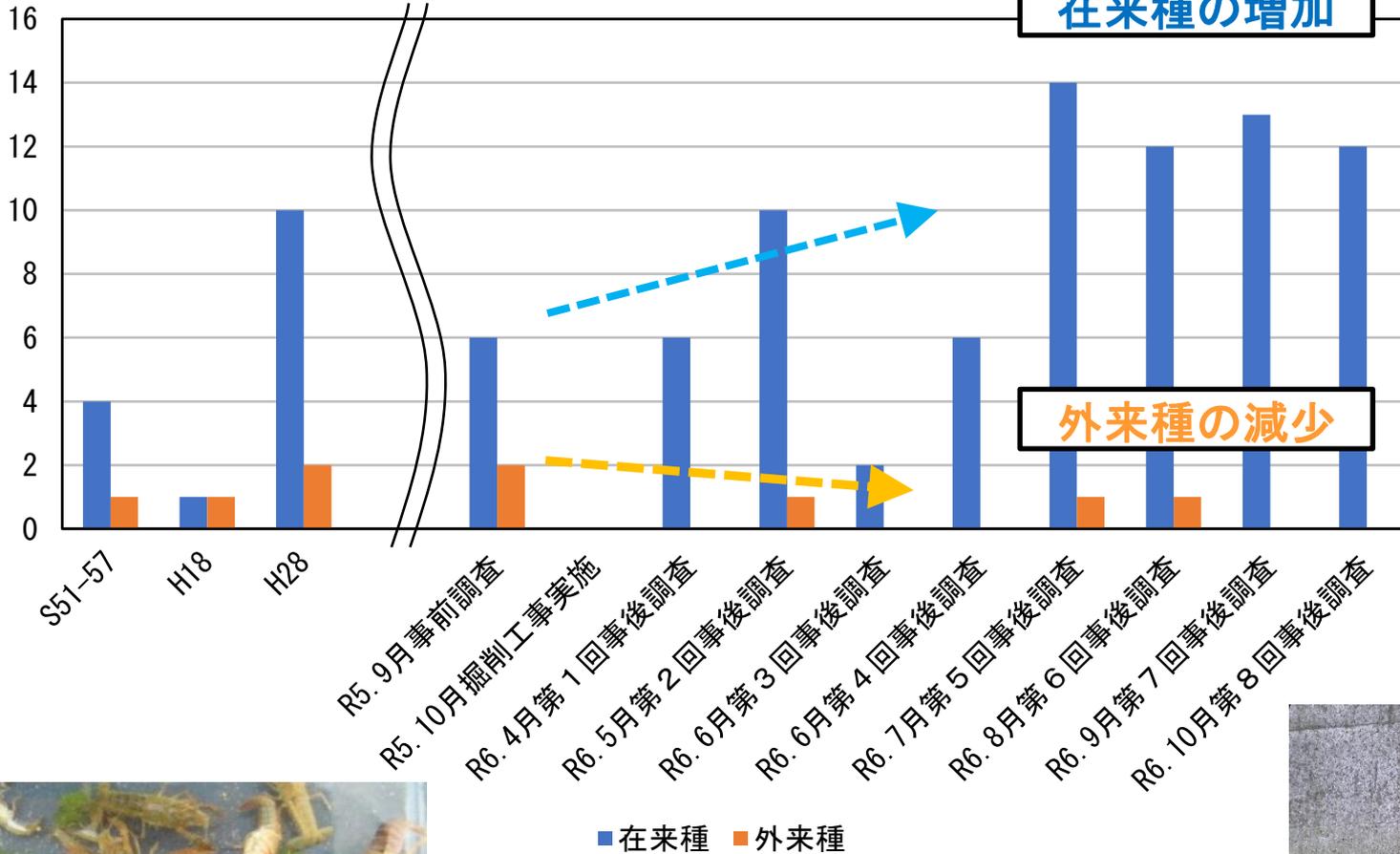
⇒目標としていた従前の生物（ヌマチチブ等）を確認
アメリカザリガニが減少、在来種が増加（特に回遊系）



モニタリング結果

◆採捕した生物の種類数の変化（在来種・外来種別）

採捕した生物種類数の変化



※子ども達による採捕のため、調査ごとに差があります

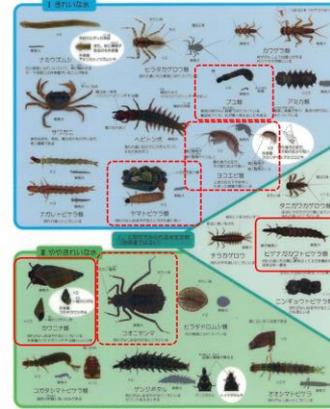


まとめ

- ◆土木事務所は「ちょっとだけ多自然川づくり」
- ◆地域の力を借りて「水辺の小さな自然再生」を実践
- 将来の多自然川づくりの担い手を育成(大学生・高校生)



川の生きものを調べよう
水生生物による水質判定



指標生物→ややきれいな水

今後の方針

◆除草・掘削などは順応的に対応



除草では水際の植生を残す

→水棲生物の棲みかを確保



河床整正では淵を埋めない

→魚類などの棲みかを確保

◆本事例をモデルケースに、地域住民・静岡市・学校・大学と連携し、他の川でも「水辺の小さな自然再生」を進める



生き物調査
(小学生・大学生・静岡市・静岡土木)



生き物調査
(近隣小学校の親子・大学生)

※写真は静岡土木事務所管内河川の他事例

おわりに ～継続した取組に向けて～

◆多自然川づくりの情報を発信して更なる仲間の参画を！

令和6年11月9日, 10日 東瀬名町自治会趣味展にて取組を紹介（流域での共有）



展示の様子



高校生が活動の様子を説明



地元の郷土歴史家も協力



小学生が魚とり



魚・エビ・カワニナなどを展示

- 流域住民を中心とした河川愛護団体を設立予定
- 河川愛護団体・静岡県・静岡市でリバーフレンドシップを締結し、行政が団体の維持管理活動（多自然川づくり）を支援する予定

(流域住民)

静岡県科学技術高校 中安さん

東瀬名町の親子の皆さん

(大学生)

東海大学海洋学部水棲環境研究会

常葉大学自然体験活動クラブ「バイオエデュ」

(工事関係者)

有限会社オカムラ

ご清聴ありがとうございました



第6回事後調査 R6.8.19